

連合福島「2016 春季生活闘争ふくしまフォーラム」

内向きから外向きへ！ 連合運動は社会全体のためにある！

～構成組織・行政関係者・経営者団体から約200名が出席～

連合福島は春季生活闘争の取り組みを前に「2016 春季生活闘争ふくしまフォーラム」を2月4日福島市のザ・セレクトン福島にて開催した。フォーラムには県内各地の構成組織や行政関係者、さらには経営者団体から約200名が出席した。冒頭、主催者を代表して今泉裕連合福島会長は「連合運動は社会全体のためにあることを再認識し、これまでの連合の内向きの活動を外向きの活動に転換していく。今次春闘も総ての労働者、生活者のための春闘と位置付けたい。」と挨拶した。



主催者代表挨拶をする今泉裕連合福島会長



講演する中尾根日銀支店長

フォーラムの前段では日本銀行福島支店の中尾根康宏支店長にお越し頂き、「2016 福島県内の経済展望について」という題で、福島県の業況判断や人口動態等についてご講演を頂いた。フォーラム後段においては、連合福島として初めてパネルディスカッションを開催した。パネリストには連合福島の今泉会長、福島労働局の引地睦夫局長、福島経営者協会の森岡幸江労務委員長、福島民友新聞社の五阿弥宏安社長、福島民報社の芳見弘一編集局長、そして

コーディネーターにはラジオ福島の菅原美智子アナウンサーに就いて頂いた。

5人のパネリストから「人口減少問題と地方創生」「県内の労働市場と労働環境」「春闘を取り巻く社会・経済環境」などについて、熱のこもった意見が



各界を代表するパネリストの皆さん



真剣に傾聴する参加者の皆さん

交わされた。その中でも「春闘は労使が話し合う貴重な場であると同時に、社会から注目される場でもある。」など、参加された皆さんも、普段聞くことができないパネリストの方々の思いや考えを、身近に生で聞くことが出来たことで、それぞれ話された内容を真剣に聞き取っていた。

最後に加藤光一連合福島事務局長から全体の総括が述べられ、フォーラムは閉会となった。